

事業の背景・目的

桶ヶ谷沼には、ベッコウトンボ（環境省レッドリスト絶滅危惧ⅠA類）等の希少な動植物が生息している。しかし、沼の水量の減少や水質の悪化、外来種（アメリカザリガニ等）の侵入などにより個体数が減少している。予算的な制約等により対応が困難であった事業を実施することでベッコウトンボの生息環境を改善し、沼本体から安定的な繁殖を目指す。

事業の内容

事業イ ベッコウトンボ生息環境改善事業
・沼全体からベッコウトンボの繁殖を目指すため、産卵・羽化するまでの外敵からの保護や湖面のヨシ等の刈り取り、足場板の修繕などの環境整備を実施。

事業ウ 水量回復事業
・近年減少した沼の水量の増加を図るため、保全地域内の側溝から雨水を沼に取り入れるための側溝改修工事を実施。
・大規模な樹木の伐採実施

得られた成果

- ・ベッコウトンボは4月～5月に羽化するため、令和3年度で実施した事業の結果が得られるのは令和5年度以降となる見込み。（令和元年度事業については令和3年度の調査以降）
- ・令和元年度の復元池の造成や側溝改修工事などの取組が功を奏し、令和3年度のベッコウトンボ定量調査における発生数は令和2年度の約3倍に増加した。
- ・令和2年度に実施した樹木伐採により、沼の水量回復に繋がっただけでなく、イワタカンアオイなど希少植物の回復に繋がったため、令和3年度に実施した樹木伐採の今後の効果が期待できる。
- ・今後も桶ヶ谷沼ビジターセンターを拠点として、県、市、地域住民、地元研究者、NPO法人等が連携してベッコウトンボ等の保全活動を継続して行っていくとともに、本事業に携わった調査協力者や育成した若手とも連携し、組織の活性化を図っていく。